

海外安全対策情報（令和2年10月～12月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件やショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。また8月に実施された大統領選挙以降、連日各地で抗議活動が行われています。抗議活動参加者と治安部隊の衝突により、多数の集会参加者等が拘束され、死傷者も発生しました。ベラルーシに滞在中の方は、常に報道等により最新情報の入手に努めるとともに、抗議活動が行われている場所（街の中心部や大通り沿い、広場、地下鉄駅周辺など）や群衆が集まる場所には近づかない、特に抗議活動が活発化する時間帯の外出は控える、外出時は旅券等身分証明書を所持するなど、十分注意してください。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2020年1月1日から12月31日までのベラルーシにおける犯罪総数は95,478件で、前年同期と比較し8.0%増加しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗27,343件（前年比10.6%減）

（うち住宅対象侵入窃盗）7,808件（同3.1%減）

イ 公然窃盗1,234件（同13.3%減）

ウ 恐喝398件（同53.7%増）

エ 詐欺4,290件（同2.4%増）

オ 暴力犯罪4,039件（同17.4%減）

カ 殺人及び殺人未遂312件（同1.6%増）

キ 重傷傷害755件（同5.0%増）

ク 強盗81件（同34.1%減）

ケ 強姦及び強姦未遂64件（同45.3%減）

（2）邦人被害事案は報告されていません。

（3）2020年10月～12月における主な被害事案は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 10月6日夜7時頃、グロドノ市カマロフ通りの寮の近くの広場で、友人と遊んでいた10歳の男児に向かって、酒に酔った50歳の男がガラス瓶を投げつけた。男児は、頭頂葉と後頭葉部分の骨折を伴う開放性脳損傷を負った。男はすぐに拘束され、男の血中からは高

濃度のアルコールが検出された。男には複数の前科があった。今回の事件は、刑法 147 条 3 項「故意による傷害罪」に問われ、5 年から 15 年の罪となる見込みである。

イ 10 月 7 日付記事によると、ミンスク市で、モギリョフに住む 20 歳の男が、森に薬物を隠したところを拘束された。拘束された際、男は克蘭ベリーの入った袋を手にとっており、森でベリーを採っていたと答えた。男の自宅からは電子計量器と絶縁テープが、森の中の隠し場所からは 5g のハシシが見つかった。男は数ヶ月に渡り、薬物取引を行うオンラインショップで働いており、グロドノや他の複数都市に薬物を隠していた。男はモギリョフの大学に通っており、スポーツを専攻していた。刑事罰には問われない。

ウ 11 月 19 日、バラノヴィチに住む 48 歳の男に、未成年強姦未遂の刑事罰が言い渡された。男は、7 月末にバラノヴィチ地区の村を車で走行中、道端に立っている少女 2 人を見つけた。車の点検のため、ハンドルを握りペダルを踏むよう年上の少女に依頼した。次に、車を動かして点検するため、一緒に車に乗って走行し、その後再度ハンドルを握るよう 14 歳の少女に依頼した。森まで到着すると、男はこの少女を運転席に座らせ、エンジンの点検をするかのように車から外に出て、運転席の背もたれを下げ、少女の服を脱がし強姦しようとした。残っていた年上の少女が両親に電話したため、両親は森に辿り着くことができ、男を引き離して警察を呼んだ。男は未成年強姦未遂罪で告訴され、5 年から 13 年の罰となる見込みであり、裁判までは拘留される。男は高等教育機関を卒業、既婚、仕事をしていた。過去に同様の罪を犯していたが、前科は時効で消滅していた。

エ 12 月 21 日、男がタクシーのボンネットを蹴って、運行を妨害していると通報があり、警察官が現場に到着した。明らかになった情報によると、若い男女がミンスクの施設で休息した後、酒を買うために店を訪れた。その後、女性がタクシーを呼んだが、女性が一人で去ろうとしていることに気が付いた 31 歳の男は道を塞ぎ、ボンネットを蹴り始め、ボンネットの上に寝転んだ。近くにいた人が男を落ち着かせようとしたが、うまくいかず、警察官が男を拘束した。男は無職で、過去に何度も軽微な暴行罪に問われていた。

オ 12 月 21 日、オンラインでの詐欺行為により、ゴメリに住む 37 歳の男が拘束された。この男はオンライン取引プラットフォームでロシア帝国時代の貨幣を販売に出した。5 月 31 日に 5 枚の紙幣を 435 ベラルーシルーブルでモズィリ市民が購入し、お金が振り込まれた。6 月 3 日に 350 ベラルーシルーブルをミンスク市民が、70 ベラルーシルーブルをゴメリ市民が送金した。更に 1896 年と 1912 年の 2 枚の紙幣に、334 ベラルーシルーブルをソリゴルスク市民が送金した。内務局によると、この男は異なる名義で作成した異なる銀行のカード複数枚を利用していた。少額の報酬やアルコール購入のため、カード口座開設に協力した者がおり、異なる携帯会社の SIM カードも作成していた。購入者がお金を振り込ん

だ後、男は購入者とのやり取りを止め、商品を渡すことはなかった。男の自宅の搜索にて、複数の銀行カードと SIM カード、貨幣コレクションが発見され、没収された。詐欺による刑事事件となり、他の同様の違法行為への関与について捜査される。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の中の一部の情報です。定期的に報道などを確認し、自身の安全確保に努めてください。